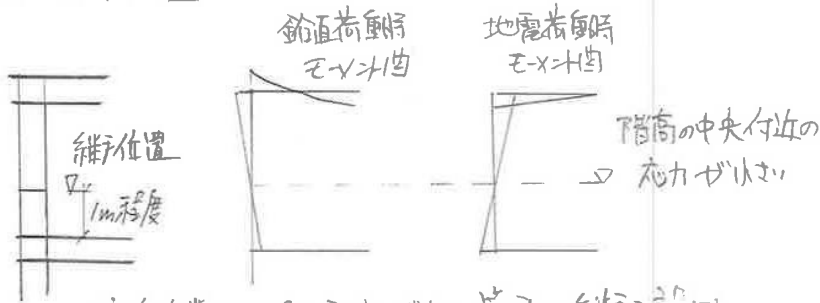


# 平成26年NO.26 鉄骨造建物の構造設計

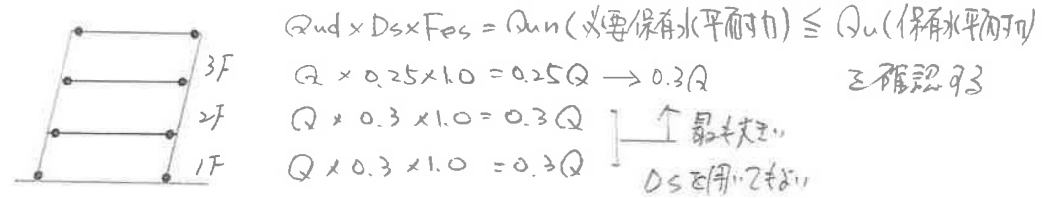
1. 柱の継手位置 → 曲げモーメントが小さい階高の中央付近に設ける
2. 各階でDsの値が異なる場合の設計 → 最も大きい階のDs値を建物全体のDs値として保有水平耐力の検討を行うことによる
3. 使用上の支障が起らない確認 → 梁及びスラブのたわみを求めて規定値以内を確認する
4. 屋根ふき材に作用する風による吹き上げ力 → 屋根構面の中央部より緑部分のほうに吹き上げ力が入る

## 1. 柱の継手位置



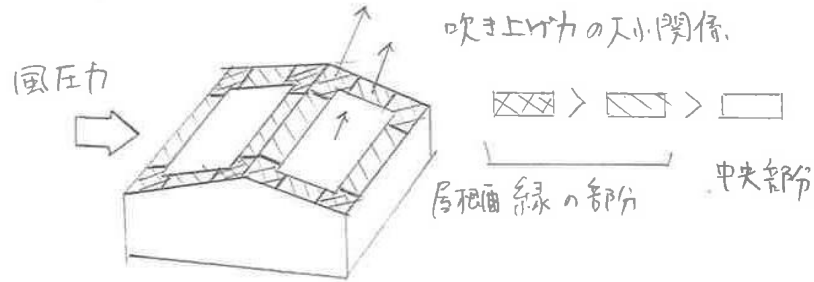
溶接作業がやり易く応力が小さい箇所に継手を設ける

## 2. 各階でDsの値が異なる場合の設計



## 4. 屋根ふき材に作用する風による吹き上げ力

令82条の4  
告示1458号



## 3. 使用上の支障が起らない確認 令82条 四号

構造部材の変形又は振動による建築物の使用上の支障が起らないことを確認する

↓  
固定荷重及び積載荷重による梁又はスラブに生じるたわみを求めて規定値以内を確認する

(181)

$$\delta = \frac{Pl^3}{48EI}$$